



齊藤勝美 彩磁紅梅花文香炉 平成3年(1991) 13.1×13.2cm 佐野市立吉澤記念美術館蔵

紅梅に霜の降りたような

初個展から4年目の初期作品です。

図案的な正面向きのピンクの紅梅が愛らしい作品です。京焼などを思わせる「和」のセンスは波山とはひと味違う傾向です。

砂糖をまぶしたような効果を持つ結晶釉を用いており、咲いたばかりの梅に雪が降ったような、あるいは霜が降りたようにも見えます。

彩磁の発色を引き立てる釉薬を探求する一方で、結晶釉や葆光釉など、さまざまな表情を持つ釉薬にも初期から取り組んでいます。



齊藤勝美 彩磁紅梅花文香炉 佐野市立吉澤記念美術館蔵 (部分)



齊藤勝美 彩磁紅梅花文香炉 佐野市立吉澤記念美術館蔵 (部分)